



新技術対応監査技法研究プロジェクト報告 一次世代のシステム監査への取り組み

Report by “Audit Techniques on New Technology” Research Project
- Approach to next-generation system audit -



2019年6月7日

新技術対応監査技法研究プロジェクト

主 査: 荒牧 裕一 (大和大学)
副主査: 雑賀 努 (株式会社ニイタカ)

研究会メンバー（アイウエオ順）

【主査】 荒牧 裕一（大和大学）

【副主査】 雑賀 努（株式会社ニイタカ）

【メンバー】（2019年3月末現在）

伊地知裕貴（株式会社ニイタカ）

浦上 豊蔵（NPO 情報システム監査普及機構）

片岡 学（大阪市役所）

深瀬 仁（パナソニック株式会社）

福永 栄一（大阪成蹊短期大学）

福本 洋一（弁護士法人 第一法律事務所）

松田 貴典（大阪成蹊大学）

吉田 博一（大阪府）

本研究プロジェクトについて

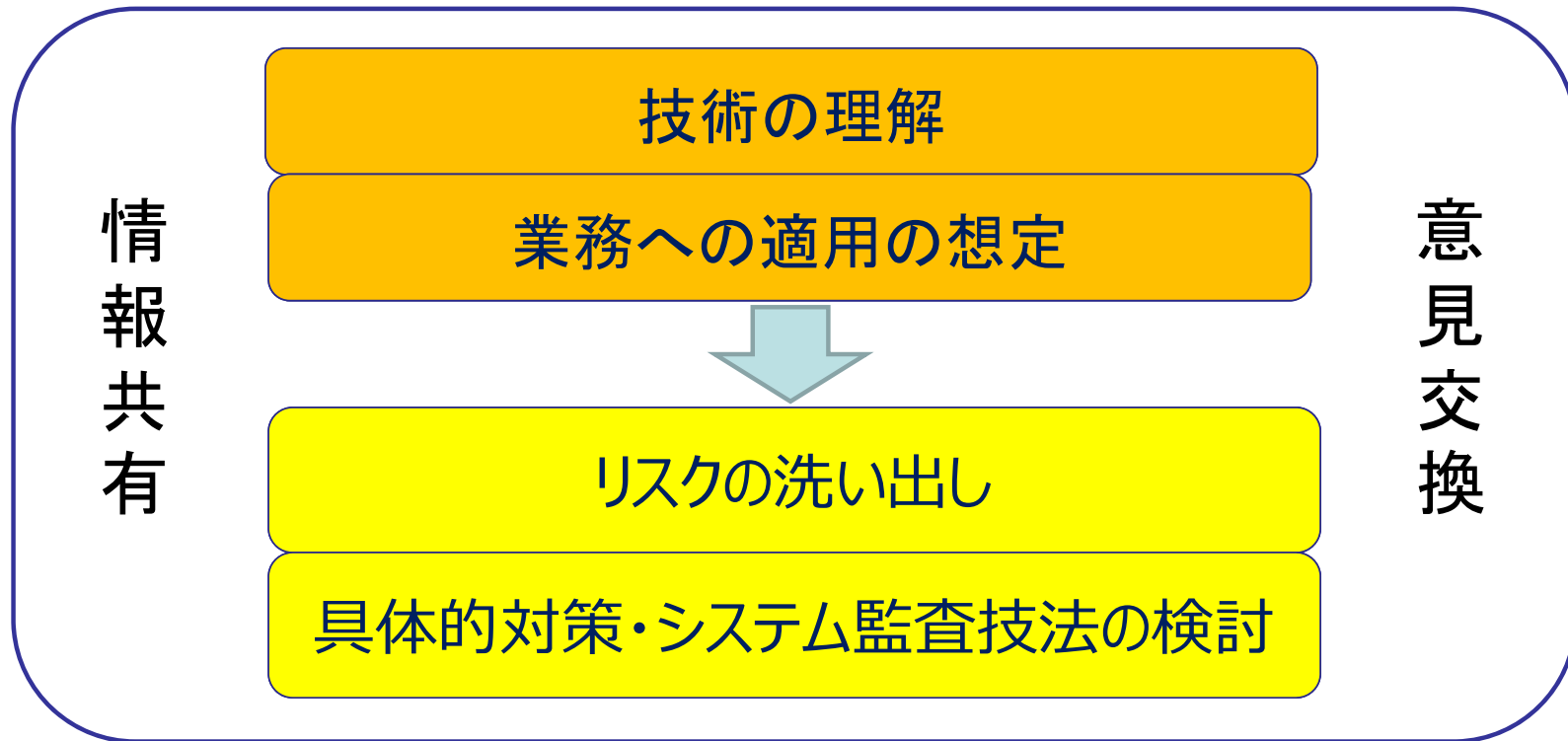
- **ビッグデータ、IoT、ブロックチェーン、AI等**、情報システムの基盤に関わる**新たな技術**の登場・普及と、個人情報や知的財産権に関する**新たな制度**の導入に伴い、情報システム関連のリスクや対策についても**新たな視点**が求められるようになってきている。
- 本研究会では、このような**新技術**や**新制度**に関し、タイムリーな情報収集を行って関連知識の収集と共有に努めると共にシステム監査の視点からの討議を行う。
- これらを通じて、**新技術**や**新制度**に対応した**監査技法**について研究していくことを目的とする。
- 研究期間は、2017～18年度の2年間である。

2017年度の活動成果

新技術・新制度に関する監査の視点 新技術の監査での活用

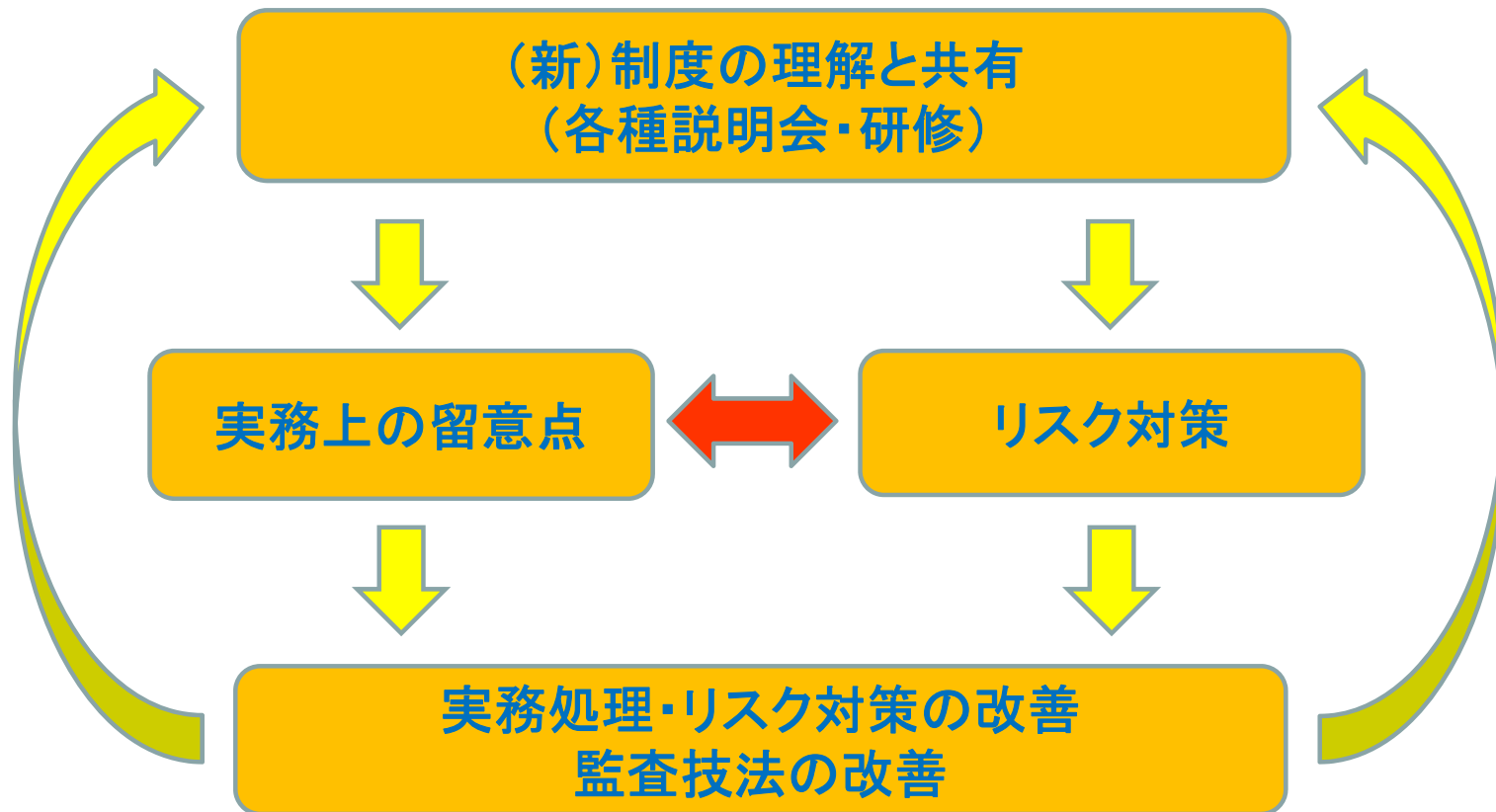
新技術への対応

新たな技術の登場
(ブロックチェーン、IoT、AI 等)



新制度への対応

実務とリスク対策の相互連携と成熟化



求められる人材像の変化

新たな技術の登場
新たな規制・制度の登場



システム監査人のスキルアップの必要性

技術の理解

業務への適用の想定



システム監査人の人材像の変化
(新たなスキル・多様なスキル)

人材不足の懸念

システム監査の対象領域の拡大
システム監査人の人材像の変化



システム監査人の人材不足

試験受験者・合格者数の伸び悩み

システム監査人の高齢化



システム監査普及のボトルネックの恐れ

C A A T の活用

監査業務の効率化

実態に即した
監査計画

判断業務・定性分析
業務への集中

監査品質の向上

定量分析精度の向上
全数監査
経常的なモニタリング

チーム内の情報共有
分析手続の標準化
若手監査人のサポート

2018年度の活動実績

2018年度の年間活動実績（1）

【第11回（合同研究）】

- ・日時：2018年4月17日
- ・テーマ①：「**新しいシステム監査／管理基準について**」
- ・内容：新・システム監査基準と管理基準の案について意見交換をした。
- ・テーマ②：「**P J の中間報告内容について**」
- ・内容：6月の大会報告の内容について調整をした。

【第12回（発表：雑賀努）】

- ・日時：2018年5月9日
- ・テーマ：「**コーポレートガバナンスコードとシステム管理**」
- ・内容：コーポレートガバナンスコードへの対応を踏まえた、経営者に対するシステム管理（監査）の提言等について発表・討議した。

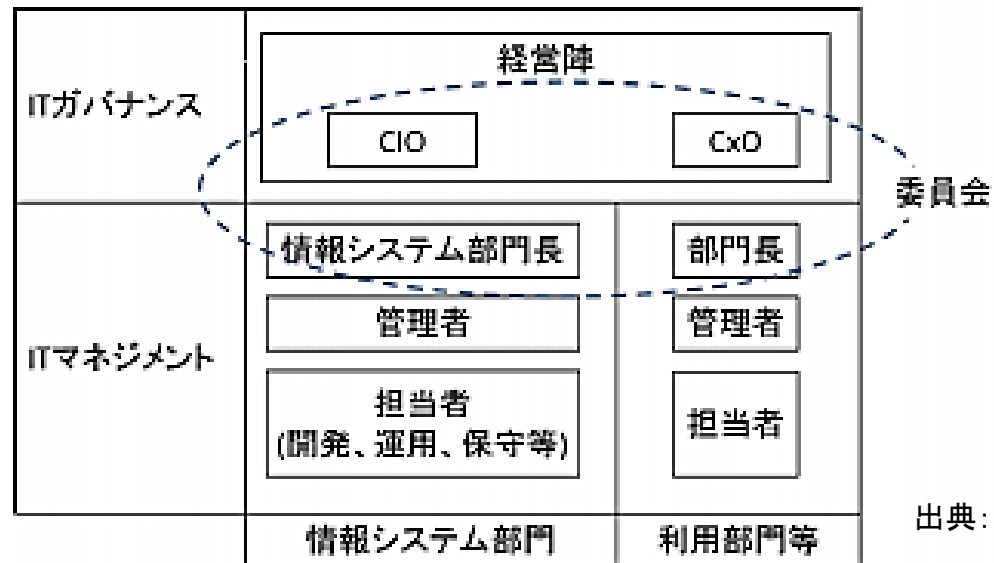
2018年度の年間活動実績（2）

【第13回（合同研究）】

- ・日時：2018年7月4日
- ・テーマ：「**新システム監査基準／システム管理基準について**」
- ・内容：正式公表された新システム監査基準／システム管理基準について意見交換をした。

新システム管理基準の前提となる組織

ITガバナンスに対応した組織



経営陣とマネジメントの合同の委員会

2018年度の年間活動実績（3）

【第14回（発表：荒牧裕一）】

- ・日時：2018年9月5日
- ・テーマ：「**Webサイトのブロッキング技術を取り巻く諸問題**」
- ・内容：コミックの違法ダウンロード防止策として話題となっているWebサイトのブロッキング技術と、著作権法の改正問題について発表・討議した。

【第15回（発表：松田貴典）】

- ・日時：2018年10月24日
- ・テーマ：「**EUでの新たな個人情報保護一般規則GDPRの施行とその対応**」
- ・内容：EUで今年施行されたGDPRの内容と対応策について、発表・討議した。

GDPRの主な改正ポイント

- 適用対象範囲がEU域内に拠点を持たない企業も対象
- 特定企業等における**データ保護責任者**の任命
- 個人データの国際移転に係る要求事項の具体化
- 本人**同意の立証責任**の要求
- 個人の権利侵害に係る**通知義務**等の具体化
- **忘れられる権利**の明確化
- **データ・ポータビリティ**に関する権利の明確化
- ダイレクトマーケティングの**拒否権**の明確化し
- **プロファイリング**による判断を受けない権利の明確化
- **16歳未満の個人データ**の取り扱い制限

楽天: BCR (世界水準の保護基準) に対応
ソフトバンク: SCC (標準契約条項) を案内

日本の個人情報法改正への影響

2018年度の年間活動実績（４）

【第16回（発表：松田貴典）】

- ・日時：2018年12月5日
- ・テーマ：「ガバナンスを考える – 企業でのガバナンスと多様な健全化対策の位置付け –」
- ・内容：企業で、コーポレートガバナンス、I Tガバナンス・情報セキュリティガバナンス、内部統制、C S R, コンプライアンス等が、どのように定義等されているのかについて発表・討議した。

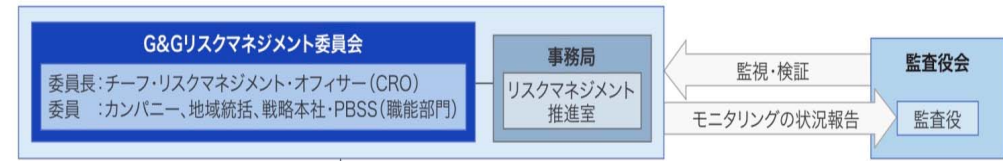
【第17回（発表：浦上豊蔵、荒牧裕一）】

- ・日時：2019年1月16日
- ・テーマ：「個別企業におけるコーポレートガバナンス」
- ・内容：電機メーカー（浦上）と、金融機関を取り上げ、それぞれの企業のコーポレートガバナンスの特徴について発表・討議した。

個別企業におけるガバナンスの現状

リスクガバナンスのモデル例

パナソニックグループ グローバル&グループ リスクマネジメント推進体制



出典: パナソニックHP

出典: みずほFG HP

2018年度の年間活動実績（5）

【第18回（発表：福永栄一）】

- ・日時：2019年2月20日
- ・テーマ：「個人情報報告制度の提案」
- ・内容：個人情報の取得に対するユーザの不信感・不安感に対応するため、どれだけの個人情報が取得・加工・保管・削除されたかをステークホルダーに開示する制度の提案について発表・討議した。

個人情報利用へのユーザの不信・不安

ステークホルダーへの開示制度の提案

X2年度末 一般の個人情報(4情報等)報告書

単位:事業者と提供先は社、その他は件

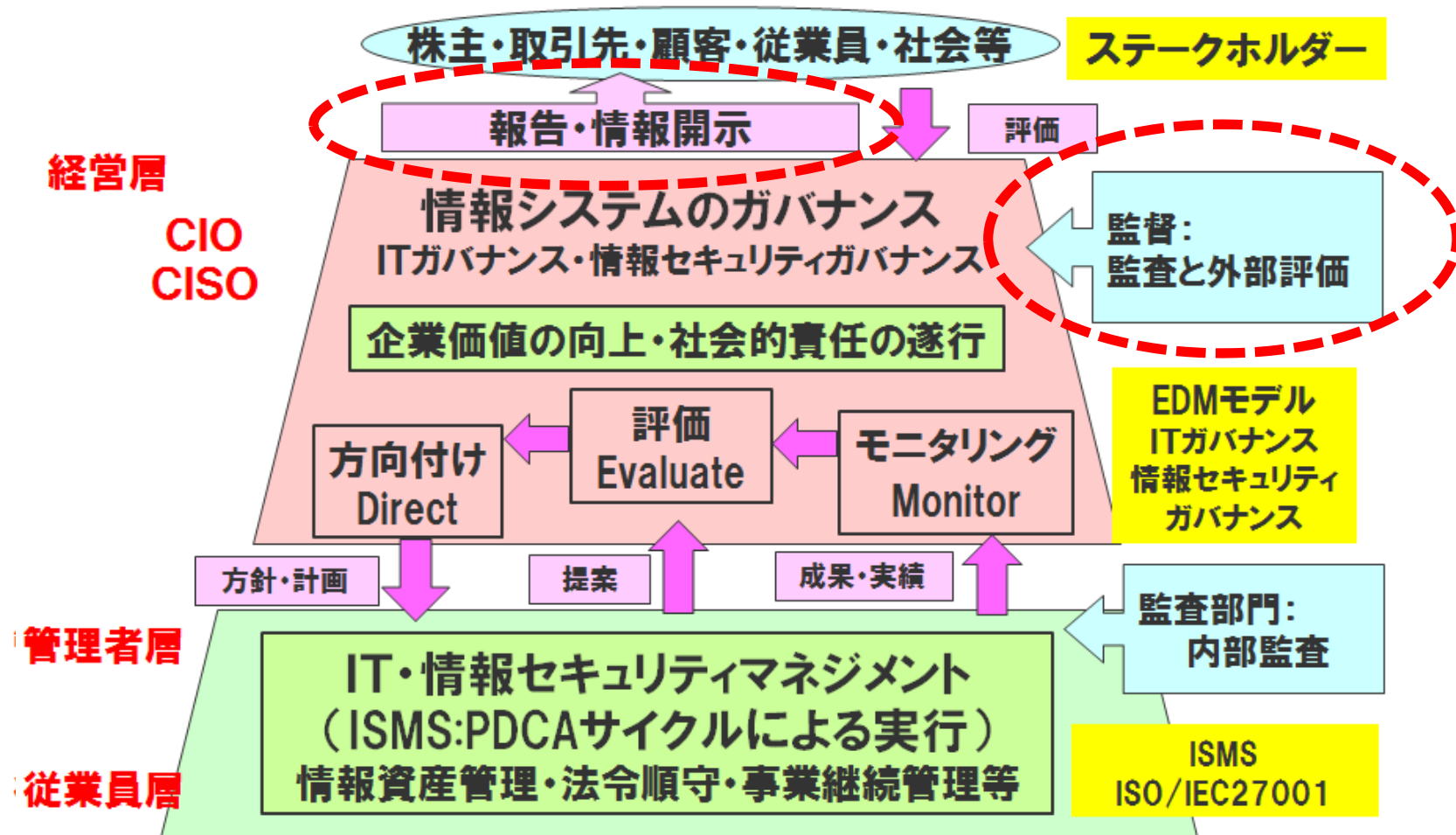
	X1年度	X2年度			
	年度末	追加	削除	増減	年度末
個人データの内訳					
自社利用個人データ	2,000	1,200	200	1,000	3,000
責任共同利用個人データ	1,000	300	100	200	1,200
提供共同利用個人データ	2,200	2,600	1,000	1,600	3,800
提供共同利用事業者	3	2	1	1	4
受領共同利用個人データ	800			300	1,100
受領共同利用事業者	2	1	1	0	2
第三者提供個人データ	900			500	1,400
第三者提供先	2	1	0	1	3

2018年度の年間活動実績（6）

【第19回（発表：松田貴典）】

- ・日時：2019年3月25日
- ・テーマ：「**情報システムのガバナンスの監査のあり方**」
- ・内容：12月の発表内容に続いて情報システムのガバナンスの概念とシステム監査との関係性等について整理・検討し、ガバナンスの監査の現状と課題について発表・討議した。

情報システムのガバナンスとマネジメントシステム



2018年度の活動成果

新しい概念への対応
ステークホルダー・ガバナンスとの関係

新しい概念への対応

情報共有

システム監査・管理基準／GDBR

ITガバナンス

個人情報保護の強化



新しい技術、ビジネスモデルの普及

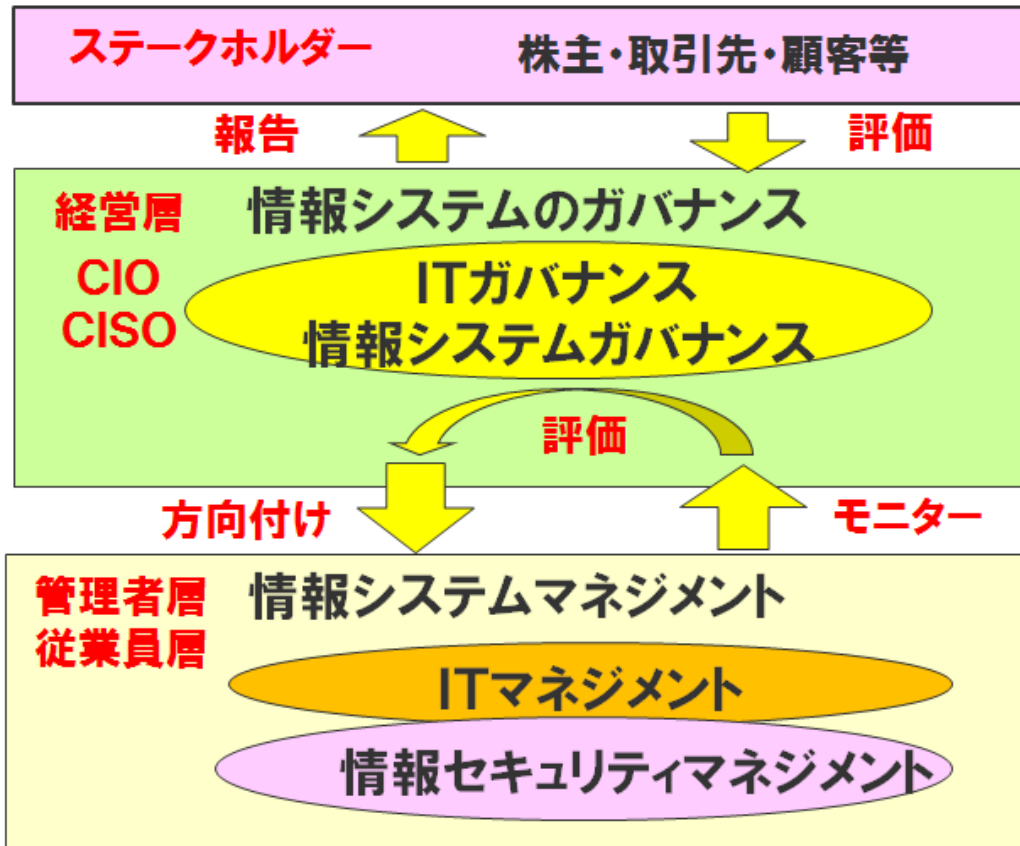
DX (Digital Transformation)

デジタルプラットフォーマーの台頭

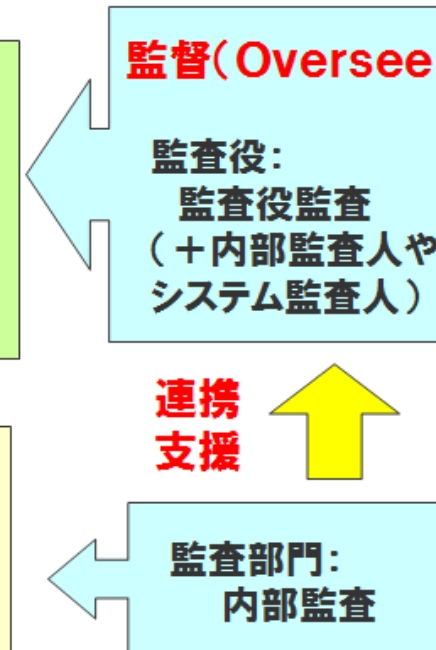
意見交換

ステークホルダー・ガバナンスとの関係

ステークホルダーに対する報告の必要性



ガバナンスに対する監督の必要性



出典:松田貴典「情報ガバナンスと監査」第19回研究会発表資料

今後の活動について

- ・2019年度以降は、研究プロジェクトの名称を「**次世代のシステム監査研究プロジェクト**」と改めて活動する。
 - ・新しい研究会でも、引き続き**新技術**や**新制度**に関しシステム監査の視点からの研究を行う。
 - ・また、**ITガバナンス**の中に位置づけられたシステム監査について、その主体・客体や監査の方式といった**制度的側面**についても研究する。
 - ・これらの活動を通じて、**次世代のシステム監査のあり方**について検討し、**その成果を学会誌等で発表していく**。
-

ご清聴ありがとうございました。